バドミントン部ＯＢ会ミーティング

副部長　中井　裕

主管校としての七大戦は、男子六位、女子二位で幕を閉じた。ＯＢ会としては、男子の結果は大いに残念であるが、裏方の諸君を含め、大会運営、ご苦労様でした。

今年も、東北大学のホームカミングデイに合わせて、「学友会バドミントン部ＯＢミーティング」が十月十一日（土）に開催された。

昨年に引き続き、私が事務局長を務めたが、開催日程がデンマークの食肉処理場の調査とタイでの熱帯医学会招待講演の合間で、デンマークの前はベトナムの田舎に調査に入っており、メイルもろくに届かないといった状態で、十分な助言ができなかったことは申し訳なかった。

当日は、午前中にＯＢ講演会が開催された。

はじめは、東北放送の奥村弥琢君。放送局入社試験と局での仕事を聞き、同じ農学部出身としては、こういう道も選べたのだと今更ながら二十代の自分を思い返した。この話題以上に、彼が役得で最高のポジションで撮影した仙台での世界戦のビデオを使っての戦略分析がおもしろかった。最短距離の最適な場所へシャトルを送り込むといったシンプルな戦略に絞った解説であった。数週間後に大学職員の大会である会田杯が開催されたが、私は彼の解説を思い出しつつ試合に臨み、高いレベルの試合ではないが、この戦略の効果を体感した。

菅原準二先輩は、矯正歯科の世界最先端の医療についてお話し下さった。コンピュータ画像解析に基づいて骨を削り歯を動かし、それが、数年後、予想画像通りに仕上がるといった「匠の技」に驚嘆した。

最後に渡邊剛先生がお話し下さった。先生の話題の豊富さとその含蓄には、いつもながら、大いに感心し、感銘を覚えた。

この講演会の参加者は学生中心であるが、ＯＢ諸氏も次回は是非参加されると良いと思う。

午後は、ＯＢと現役交流のバドミントンを片平体育館で、夜は国分町の手羽一郎で懇親会が開催された。東北大学開学百周年の昨年と比べると、在仙ＯＢを中心としたこぢんまりとした会となったが、ＯＢのバドミントンと部に対する熱い思いを現役諸君に伝え、現役との交流の場として今後も開催して行きたいという思いを新たにした

この秋もＯＢミーティングを開きたいと考えています。皆様のご参加をお待ちしております。